

地歴公民(日本史) 早稲田大学 法学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式 23 問(語句選択 7 問 正誤判定 14 問 年代整序 2 問) 記述式 17 問 計 40 問

分量・難易(前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数 4 題、設問数 40 問は変化なし。語句選択問題は 1 問増加して、正誤判定問題は 1 問減少した。また、昨年度は全ての大問に置かれた語句選択問題が大問Ⅲ・Ⅳには見られなかった。

出題の特徴

時代配分は、原始・古代・中世(鎌倉期) 1 題、中世(鎌倉・室町期) 1 題、近代(明治・大正期) 1 題、近・現代 1 題である。例年、近代を扱う大問では、日記などの未見史料を素材とする問題が出題されることが多い。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定 年代整序 記述	食糧の確保からみた 原始・古代・中世社会	全体的に平易な問題が多く、ここで取りこぼしのないようにしたい。問 10 は、設問にある「寛喜の大飢饉」が鎌倉時代の出来事だと知っていれば、確実に「親鸞」を解答できるだろう。	やや易
II	語句選択 正誤判定 記述	13 世紀後半～15 世紀前半の 日中・日朝関係	問 3 のうは、「異国警固番役を編成する」を「異国警固番役を新設する」と捉え、誤文と判断したい。問 5 の「難太平記」は文学部(19 年)で、問 8 の「文引」は文化構想学部(20 年)で問われており、やや細かい知識だが早稲田大学受験生は知っておきたい。	標準
III	正誤判定 年代整序 記述	日記からみた第一次 世界大戦前後の政治・外交 《史料》	早稲田大学法学部頻出の未見史料問題である。知識に加え、設問に示されている史料の時期範囲(1908～17 年)を踏まえた判断力も必要で、丁寧な対応が求められる。問 2 は、史料の読み取りで判断したいが、やや難。問 3・問 9 は、やや難。問 10 はやや難だが、出来事相互の因果関係が分かれば正答を導けたらう。	やや難
IV	正誤判定 記述	近現代の地方制度と 地方政策	問 2・問 7・問 10 は、やや難。各選択肢の細かい内容に惑わされず正答を導きたい。問 3 は、難。内務省は、地方自治法の制定・施行後に解体された。問 5・問 6 は、難。問 8 は、「列島改造」など他の表現も許容されるだろう。	難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

入試問題の難度を把握し、差がつきやすい正誤問題や法学部で定番となっている近代に関する未見史料問題への対策を練るためにも、過去問研究を積極的に行いたい。それにより、日頃の学習においてどのようなことを意識する必要があるのかを明確にすることができ、合格に必要な学力を確実に身につけることができる。また、大問Ⅳでは戦後史・時事的事柄の出題が多く、日頃から日本をとりまく国際問題などに関心を持つようにしたい。